

## 国際交流基金海外派遣事業報告

大阪薬科大学 薬学部薬学科 3年次生 柘川真由美

はじめに

この度、私は国際交流基金の助成を受けて、平成26年3月17日から26日にかけてヨーロッパ薬学研修に参加しました。この研修では、イギリスにてネルソン薬局、グラクソスミスクライン社、ロイヤルオーソペディカル病院を、ドイツにて薬事博物館、フランクフルト大学、ノルドウェスト調剤薬局を訪問しました。歴史と実績のあるイギリスやドイツにおける、病院・薬局等で活躍する薬剤師の現場や薬学教育のシステムについて学ぶことで海外の薬剤師の実情を目の当たりにし、自分の将来について感化される有意義な10日間でした。

イギリス

### ・NELSONS HOMEOPATHIC PHARMACY

ネルソン薬局は、1860年にイギリスのロンドンで最初に設立されたイギリス最大手のホメオパシー薬局です。ホメオパシーとは、自然治癒力の喚起を目的とした同種療法です。症状を引き起こすであろう成分を、その患者に極わずかに投与し、情報パターンだけを与えることにより体の抵抗力を引き出し、症状を軽減します。日本ではあまり普及していませんが、イギリスでは普及率が高く、世界的にも評価が確立されています。



イギリスでホメオパスの免許を取り、ホメオパスとして実際にネルソン薬局に勤務されている日本人の「Kyokoさん」がおり、ホメオパシーについて詳しく説明していただき、納得いくまで理解を深めることができました。

ホメオパシーでは、心と体に加え、患者一人ひとりのバックグラウンドが密接に関係していると考えられています。そのため、ホメオパシーの専門家であるホメオパスはしっかりと患者のカウンセリングをし、その患者の既往症、性格、考え方、過去の経験など様々な質問から患者一人ひとりの全体像をみて適切なレメディーを選択します。ここには、イ



・ GlaxoSmithKline(GSK)

グラクソスミスクライン社は本社をイギリスに置く、世界第四位の売上と規模を誇る製薬企業であり、医療用医薬品、一般用医薬品、ヘルスケア製品、ワクチンの研究開発、製造、販売を行っています。今回はロンドンにあるWare支社の工場を訪問しました。ここはイギリス内にある唯一の薬の製造拠点であり、ここで製造さ



れた医薬品は130カ国に出荷されます。日本は重要な市場の一つです。

同社は、呼吸器系治療薬が有名であり、今までに約5,000万個の商品が販売されています。中でも、喘息治療薬が一番多く、代表的な医薬品としてAdvairがあります。今回は工場内の説明・見学、AdvairやAdvairに代わる新薬

Elliptaの概要、製薬会社における薬剤師の役割についてお話していただきました。またお話から新薬開発・研究におけるの熱い情熱を感じ、たとえどんなに長い年月をかけても、人の人生をよりよくするという一つの目的に向かっていくことは素晴らしい人生の生き方だと、とても魅力的に感じました。



・ ロイヤルオーソペディカル病院

ロイヤルオーソペディカル病院は整形外科専門の病院であり、全国から患者さんが集まります。イギリスの薬局では、ファーマシスト（薬剤師）、テクニシャン、アシスタントの3つに分かれており、3つそれぞれが異なる職責で業務を行っています。



テクニシャンやアシス

タントがそれぞれ定められた範囲内の薬剤業務を担うことで、薬剤師はさらなる専門性を発揮することができ、これは職能の拡大を可能とします。

ここでは実際にファーマシストとして働く薬剤師の方々に病棟内の見学、病院薬剤師としての業務について説明を受けました。ここで話をしてくださっ

た薬剤師の方はとてもプロ意識が高く、薬剤師として自信と薬のプロとしての自覚を持っていらっしゃる姿がとてもかっこよく感じると同時に、自分もそんな風になれるようにより一層の努力が必要であると思いました。

## ドイツ

### ・ 薬事博物館



ドイツの薬事博物館では、医学と薬学の歴史とルーツについて知ることができます。ここでは日本人ガイドさんに説明を受けながら、古代四大文明時代からの医療を観ていきました。タイムスリップしたかのような建物



の中には多数の展示物があり、とても見ごたえがありました。食物・動物そして鉱物まで自然界のあらゆるものが薬となります。博物館の通路に沿って進んでいくと、先人たちの知恵の継承が現在の医学・薬学に至るまでを知り、とても感銘を受けました。

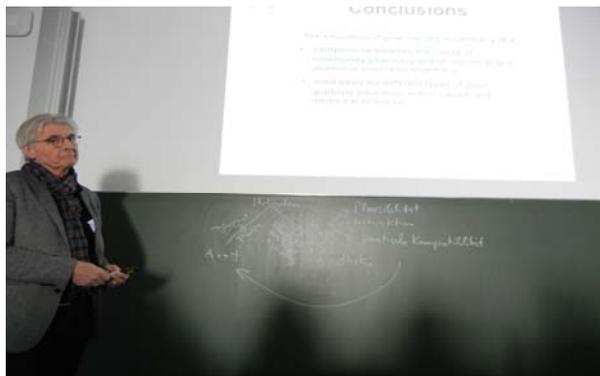


### ・ フランクフルト大学

ドイツでは22カ所で薬学教育が行われており、薬剤師の均一化により薬学部ではすべて同じカリキュラムで行われています。カリキュラムが均一化されているからこそ、フランクフルト大学薬学部ではより良い学生を得るために、高校卒業の時点での成績から上位約200人を選抜し、さらに面接をすることで薬剤師への適性で最終約60人を絞り出し、質の高い薬剤師の育成を目指します。



ここでは、フランクフルト大学の教授の方にスライド・黒板を使ってドイツの薬学教育



やフランクフルト大学薬学部の教育についての取り組みについての説明を受けました。今回の研修の参加者は、全員薬剤師を目指している学生ということもあり、たくさんの質問が飛び交い、教授には教育者という立場からの回答をしていただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。

### ・ ノルドウェスト調剤薬局



ドイツの薬局には統一されたマークがあり、白地にドイツ語で薬局を意味するApothekeの頭文字であるAが書かれており、薬杯で薬剤師が取り扱う薬と、守護、魔力、神秘、健康、不老、長寿、不死などを象徴する蛇が描かれています。

ノルドウェスト調剤薬局はハイデルベルクの住宅街の一角にある一般薬局であり、ここでは実際の業務の見学とその説明を受けました。薬局の外観は開放的な印象を受けました。

ドイツでは医薬分業が徹底されており、医師が書いた処方箋を持って薬局へ行き、薬を購入することができます。また、ドイツで免許を取得すると、EU圏内どこでも薬剤師として働くことができます。こういう制度は人事交流ができるとてもいいことだと思いました。



・ おわりに

私もいよいよ四年次生となり、大学生活もちょうど折り返し地点となりました。私の周りの四年制大学に通う友達はまだ就職活動を始めています。そんな周りの友達の就職活動の話聞き、私自身も自分の将来について少しずつ考えるようになりました。私自身まだはっきりとした夢がなく、少しでも今の自分の付加価値となれば良いなと思ったのが、今回の研修の参加を決めるきっかけでした。

今回の研修で海外の薬剤師の現状を知ることは、同時に日本の薬学についても考えるいい機会でした。それぞれの国によってそれぞれ独自の制度があり、すべてを日本にも取り入れたらいいとは思いませんが、それぞれの長所・短所を把握した上で、これからの日本の薬学界をよくするために、国境を越えて助け合い、補い合えたらいいなと思いました。また、実際海外に行って現地の方々と接することで改めて感じたことは、自分の英語力の低さです。日本の薬剤師もグローバル化が進んでいる中、やはり英語は必要不可欠です。今の時点で英語の大切さを再確認できて本当によかったです。

私は四年次生であり、まだ知識や経験が少ない状態で今回の研修でのたくさんの刺激を受け、今これからの残りの大学生活で学ぶいろいろなことにワクワクしています。今回の研修で自分の将来がはっきりと決まったわけではありませんが、本当に参加してよかったと思える研修でした。今回のことを、薬剤師を目指す上での新たな志として活かしていきます。

国際交流基金の助成により、このような貴重な機会を設けていただいたことに感謝します。ありがとうございました。